

2021年1月21日

旧東海道ブラ歩き（1）日本橋—青物横丁

10時23分西大井発横須賀線で新日本橋まで行き、そこから日本橋まで歩いて11時丁度到家内と二人で歩き始めた（写真1）。元々は畏友吉田清直さんと故西村耕二さんの東海道弥次喜多道中記に刺激されたものである。勿論我々は京都まで歩こうなどという気はさらさらでないが、家内も小生もせめてそのほんの一部分でも歩いてみたいとの気になったので、先日近所の図書館で東海道の歩き方のような本を借り、本日決行したわけである。結果としては日本橋から青物横丁まで歩き、そこからは旧東海道を外れて大井町にいる娘の家で一休みして最終的に自宅まで歩いた。合計28300歩の散歩だった。

11時に歩き出してすぐに家内がウサギ屋という店につかまった。ここのどら焼きが極上で普段は行列で買えないか品切れの場合が多いが、今日はコロナ禍で誰も客がいないのをめざとく見つけ、早速購入したわけである。その後も高島屋、丸善、明治屋などには目もくれず歩いた（交差点に昔からあった赤木屋を見つけたときには流石に懐かしかった）。銀座に入っても伊東屋、田屋、教文館、ミキモト、山野、和光など主として家内が興味がある老舗を通り過ぎる。この過程で昔立田野の近くにあった帽子の大黒屋が京橋近くに移転していることを発見。そろそろお腹がすいてきたのでヤマハに新たに設けられたサロンならそれほど混んでおらずコロナ感染の心配も無いと考えそこで軽い昼食をとろうと思って入ったところ、緊急事態宣言でお茶とケーキだけで軽食は出さないといわれ、それでは天国で天ぷらを食べようと思って探したが、本来の場所には見当たらない。やはり銀座も刻々と変わることを実感させられた。

丸善の前を通ったときに元祖早矢仕ライスの看板が出ていたが、戻るわけにもいかずママよと歩き続けようと思った矢先、日本テレビの本社の目の前のビルの食堂街で1軒の店を見つけて入り12時から30分で食べ終え再び歩き始めた。この昼飯は明太子が食べ放題で一人あたり1100円で大変おいしく、正にあたりであった。歩いているうちに大門、三田と来たところで泉岳寺がありここに寄り道して浅野内匠頭、大石内蔵助以下の義士の墓を見学、また国道1号線に戻って高輪ゲートウェイの駅のあたりでだんだん足が遅くなり、後ろから来た結構なお年寄りに抜かれて追いつけない有様、そこで一休みの場所を探したがなかなか見付からず、最後に1軒だけルノアール（Renoir）と言う昔からの喫茶店があるのでそこに飛び込んで一服の後また歩き始めた。最初に歩き始めたときには品川まで足がもつかどうかと思っていたので今日の最終目的地は決めていなかったが、一休みして少し元気になったこともあって折角だから北品川からの旧東海道まで行ってみようということになった。

品川から八ツ山橋で国道から左に逸れ、品川宿で記念写真（写真 2）、愈々旧東海道に入った。車が結構走っているのが気になるが、街道は気持ちよく整備され、あちこちに名所旧跡の案内が出ている。道に面した新しい建物も街の雰囲気に合わせてものとなっており、街全体も下町風情が充満していて活気がある。ちょっと立ち寄りた食堂や珈琲屋もたくさんあるが、ここは我慢して歩く。吉田兄のお薦めの「天岩戸ご開帳」の絵を是非見たいと思ったが、それがどこにあったのかの記憶が不明瞭で、帰宅後に寄木神社だったことが分かったが後の祭りであった。次回のお楽しみとすることとする。

こうして青物横丁まで来たところでもかなり体力を消耗し、また太陽が大分傾いてきた。そこでここから先は次回と言うことにして旧東海道を離れ、第 1 京浜を横切って大井町駅を通り越して、這々の体で娘の家にとどり着いた。幸い娘が在宅勤務だったのでここで件のどら焼きを賞味し、お茶を入れて貰って 40 分ほど休んで暗くなった道を家内共々転ばないように気をつけながら帰宅した次第。

日本橋から 7 時間かけて自宅まで歩いたので、これからこれを皆に自慢しようと思っている次第である。しかしいつも 3 時間近く練習している Violin は流石に弾けず、気候変動対策の研究も今日は一日休みとせざるを得なかったのが残念だった。年を考えるとやむなしか。



写真 1 日本橋 出発点



写真 2 品川宿の案内板